

<注意事項>

※赤文字は削除してご使用ください。

※フォントは 12 ポイント以上/推奨フォント Meiryu UI、余白は 10mm 以上でご記入ください

※各項目の枠の幅はご自由に設定ください。

No. [2021036]

※画像、写真、イラスト等添付可能ですが、必ず用紙の中に収まるようにお願いします。

【エントリー名】京都大学オンライン公開講義「立ち止まって、考える。」〜ウィズコロナの社会を見据え、学びの機会をオンラインで共有するプログラム〜

【事業主体】

京都大学

【カテゴリー】いずれか 1 つに✓を入れてください。

- マーケティング コーポレート ソーシャルグッド
- その他（システム開発、研究活動、執筆など①～③にあてはまらないもの）

案件概要： Describe the campaign/entry

- コロナパンデミックの急速な拡大によって、2020 年 4 月緊急事態宣言が発令され日本中の学校が閉鎖を余儀なくされた。そのような環境下でも、**学びの場を提供しなければならないという問題意識から、京都大学オンライン公開講義「立ち止まって、考える」が発足した。**
- 京都大学の人文社会科学の教授・准教授たちが、コロナパンデミックを共通のテーマに据え、**毎週土日に YouTube と Twitter でライブ配信のオンライン公開講義を実施。**誰でも申し込み不要で、無料でスマホや PC から参加することができる。YouTube ライブのチャット機能を通じた双方向の講義スタイルで、受講者と共にコロナパンデミックを論じ、**新たな時代を生きるためのヒントとなる「座標軸」を社会に提供する教育プログラム**となっている。

解決すべき課題： Challenges

- コロナパンデミックによって、**世界中の人々が価値観を根底から揺さぶられる事態に直面している。**教育現場でも学びの機会をどのように再定義するかが問われている。2020 年 4 月の緊急事態宣言以降、日本でも小学校から大学まであらゆる学校が休校に追い込まれ、長期にわたり学びの場が失われる事態となった。一方で、コロナパンデミック以前から、20 代～40 代の仕事を持つ現役世代が、**学ぶ意欲はあっても長時間労働などで学問に触れる機会が持ちにくいという社会的な状況に直面している。**また、**子育て中の女性や近隣に大学などの教育機関のない地方在住者**など、時間や地理的な問題で学ぶことを諦めざるを得ない人々が多数いることも、教育を取り巻く社会的な課題となっている。このような危機の時代に、大学という教育機関が、狭い専門知の枠に閉じこもらず、**社会課題に対して積極的に発言し、解決へのヴィジョンを提示することが求められている。**

パブリックリレーションズとしての視点： Why PR ?

- コロナパンデミックをきっかけに学生のみならず「**学ぶ意欲はあるけれど環境や境遇によってその機会を持つことができない**」全ての人に学びの接点を作り出したこと。
- 誰もが持つスマホデバイスで、YouTube やツイッターなどの無料プラットフォームを活用して、**学びの機会を学習レベルや年齢制限などない完全にオープン化したこと。**
- ライブ配信でのチャット機能を活用した「**双方向性**」のある講義スタイルによって、**教える人と学ぶ人の垣根を取り払い、21 世紀型の教育のあり方を指し示したこと。**
- 従来のシンポジウムなどでは、参加者が大学近隣エリアに住む 60 代以上の男性に偏る傾向があったが、週末のオンライン公開講義としたことにより、男女比が 1:1 で 20 歳～44 歳までの参加者が 60%以上に達した。これは、**学ぶ意欲はあったが物理的な理由で参加できなかった人と、大学教育のミスマッチを解消したこと**に他ならない。

課題解決のための戦略： Strategy

- コロナ禍で多くの人がストレスを感じ、**これまでの自分の生き方や社会のあり方が正しかったのか自問自答せざるを得ない状況**となっている。しかし、問い自体があまりにも大きいため、深く考えるためには**社会で共有できる言葉や座標軸が必要となる。**人文社会科学は、長い時間をかけて蓄積してきた人類の知恵であり価値の学問である。このような人類知は、経済や医学のようにパンデミックを解決する具体的なソリューションを提示することはできないが、**価値観の揺らぐ時代にどうやってもう一度社会を再起動させるべきか、一度立ち止まって根本的に考え直す座標軸を示すことができる。**
- 人文知の考え方をコロナパンデミックがもたらす問題と重ね合わせながら、**インターネットを通じて対話的、双方向的に人類知を共有することが、価値観の揺らぐ今の時代に大学教育が果たせる使命である**と考えた。

課題解決のためのアイデア： Idea

- 2020 年 7 月から毎週土日に、哲学、倫理学、文化心理学、臨床心理学、環境史、現代社会論、公共政策、認知神経科学、地域研究・メディア学など、**全 26 回の無料オンライン講義シリーズを 2 ヶ月間にわたり実施した。**1 時間の講義を YouTube と Twitter でライブ配信し、40 分程度がスライドを使った講義で、20 分程度がチャット機能を使った質疑応答の時間に充てられた。また、**オンライン講義の映像はすべて YouTube にアーカイブされており、いつでも視聴することができる。**参加者はチャット欄を通じて、講義中に自由に質問や議論をすることができるため、**教える側と学ぶ側の境界線のない、相互で知を高め合う学びの空間**となっている。これは、一方向的な「教える―教わる」関係にもとづいた知識伝達ではなく、**インターネットを通じて対話的、双方向的に自己更新していく「21 世紀型の教養」**を体現している。

活動内容： Execution

- オンライン公開講義は、下記の主なスケジュールで実施をされた。**全ての講義の共通テーマがコロナパンデミック×学問**となっている。
 - ・実施概要：**毎週 土・日 開講 / 各日 2 回 / 各 1 時間 (11:00～12:00, 14:00～15:00) 40 分程度の講義と 20 分程度の質疑応答**
 - ・シーズン 1：2020 年 7/4～8/23 (全 26 回) / 講義内容：哲学、倫理学、環境史、メディア学、公共政策、臨床心理学、現代社会論、文化心理学など
 - ・シーズン 2：2021 年 2/7～3/21 (全 20 回) / 講義内容：科学哲学、倫理学、社会学、現代技術文化史、西洋哲学史、文化遺産学、美学など
 - ・シーズン 3：2021 年 8/14～9/25 (全 22 回) / 講義内容：哲学、倫理学、社会人間学、臨床心理学、認知科学、仏教学、観光学、社会思想など
 - ・全講義を YouTube と Twitter でライブ配信、アーカイブは YouTube にて無期限で視聴可、参加無料で申し込みは不要

目標に対する直接的・間接的な成果： Results

- 「京都大学による無料オンライン公開講義」というニュースは、新聞各紙など 100 を超えるメディアで紹介された。SNS では影響力のあるジャーナリストなどが話題にしたことから、**関連するツイートが 3 万 3 千件を超えのべ 2878 万人にリーチ**に達した。初回配信のリアルタイムでの参加者は 15600 人で、**全ての講義の視聴回数は 55 万回**を超えている。オンライン講義の参加者は、**44 才以下の比率が 66%で普段仕事で忙しい現役世代が中心**となった。また、男女比率が 1:1 で、特に**子育て中で学びの機会を持つことが困難な女性や、近隣に大学のない地方在住者**から大きな反響があった。2021 年 2 月にはシーズン 2 (科学哲学、西洋哲学史、現代技術文化史、社会学、文化遺産学、西洋美術史、美学など)、7 月にシーズン 3 が開催され、**京都大学の公式なオンライン講義プログラムとして継続的に開催**をしている。